

平成30年度 院内合同研究発表会

期 日 平成30年10月2日（火）

ソーシャルワーカーフォーラム

小邑 昌久

高山赤十字病院 医療社会事業課

はじめに

昨年、全国赤十字病院医療ソーシャルワーカー協議会として初めてフォーラムを開催し、被災地における生活支援の必要性と医療ソーシャルワーカーの支援の可能性について問題提起をおこなった。その中で、様々な課題が確認できたが、主に

- 1 生活支援のための研修会の確立
- 2 具体的な派遣にむけた調整
- 3 被災地支援と被災病院への支援のあり方

上記三点について、当協議会では検討を進めてきた。協議会内の「災害支援プロジェクト」の活動（アンケート活動・研修の検討）とともに、平成30年度協議会研修会において、「赤十字ソーシャルワーカーとして生活支援を見つめ直す」をテーマに防災と地域包括ケアを通じた地域づくり、災害と生活再建制度の知識の備えという内容の講演会を企画し、赤十字病院医療ソーシャルワーカーの意識改革を目指した。その中で平時からの地域への関わりや組織の形成の必要性があり、地域包括ケアプロジェクト活動と災害支援プロジェクト活動は連動していくものであるとの認識も生じてきた。当協議会は専門研修として、毎年継続できる研修会を確保し、災害地に派遣できる医療ソーシャルワーカーの育成をおこなっていく方針である。

今回のフォーラムでは、当協議会の活動の報告（災害支援プロジェクト、地域包括ケアプロジェクト）を行うとともに、日本赤十字社の取り組みについて報告をしていただくなかで、災害時にソーシャルワーカーがおこなう支援のより具体的な方向性の確立を目指していきたいと考える。

テーマ

「災害ソーシャルワークの実現に向けて
～我々の決意と取り組みの報告～」

パネルディスカッション

座長 長野赤十字病院 河村

（全国赤十字病院医療ソーシャルワーカー協議会会長）

パネリスト

日本赤十字社 白土

（救護・福祉部次長地域包括ケア推進室長）

高山赤十字病院 小邑

（災害支援プロジェクトリーダー）

福島赤十字病院 菅野

（地域包括ケアプロジェクトリーダー）